



## 教授の呟き

### 第68回

# 歴史を訪ねる旅の楽しみ

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

#### ●●● 物流の故事来歴を訪ねる旅

10年近く前から用事で地方に出かけるたびに、小さな街に寄り道することを密かな楽しみにしている。とりわけ小京都や小江戸と呼ばれる古い街は、港や河川沿いの物流で栄えた街でもあるから、水辺に映える蔵の風景が美しく、伝統の味に出合うこともできる。

物流の故事来歴を訪ねる旅が、美しい街を歩くことにもなる幸運には、大変に感謝している。

#### ●●● 街を歩くときの決めごと

「好きな料理は、最初に食べるか、それとも最後まで取っておくか」という問いかけには、性格や好みが表示されるようだ。どちらかと言えば、楽しみは後が良いと考え「最後まで取っておく」方だが、街を歩くときだけは「一番の目的地を最初に訪れること」にしている。

目当ての物が屋外にあれば、夕方では暗くて見づらかったり写真写りが悪かったりする。

また博物館や資料館で興味深いビデオを何本か見つければ、1時間や2時間はすぐに過ぎてしまう。展示に魅せられて、時間を忘れることもある。だから悔いが残らないように、もっとも行きたい場所から訪れることにしている。

最大の見どころを終えた後は、駅に戻る時間と道筋を考えながら、そ

写真1 ふと訪れた郷土資料館で見つけた「牛乳配達車」(岡山県高梁市)



ぞろ歩きを始める。その途中、期待せずに入った郷土資料館で、たまたま物流に関連する展示があったりすれば、またまた心が躍ってしまう(写真1)。

#### ●●● 周遊するときの心構え

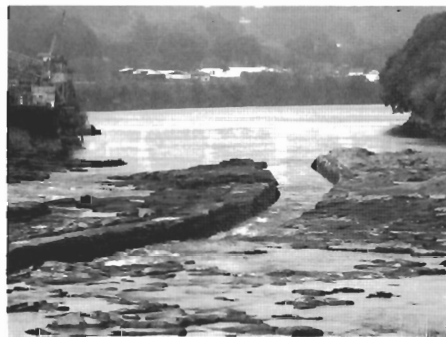
いくつかの街を周遊するときは、レンタカーを借りることにしている。

あらかじめ複数の目的地を定めてから出発するのだが、移動中にカーナビで検索するとガイドブックには出ていない資料館があったりする。

初の訪問先で「このような展示物を探しているのですが…?」と聞けば、「〇〇に行くよりも、むしろ△△の方が面白いですよ」などとアドバイスしてもらえ。「そんなに舟を見たいなら、近くの船大工さんが復元のために造っている最中だから寄ってみたら…」と、作業現場まで連れて行ってもらったことが、いままでの最大のヒットである。

また、訪れた郷土資料館で初めて河川舟運のために開削された岩場の存在を知ったときは、どうしても実物を見たくなくて、急きょ寄り道を

写真2 勇気をふるって林道を走り見に行った「大淀川の観音瀬の開削跡」(宮崎県都城市)



することにした。

河川の岩場はカーナビに出てこないから、地元の人に「観音瀬はどこですか」と聞いたところ、「何年前にも聞きに来た人がいたなあ。少し先の細道から入るのだと思うけど…」とのこと。しとしとと降り続く雨のなか、すれ違いできないほど細い道を、「帰りは、バックで戻るのかなあ」とヒヤヒヤしながら走った。

急に視界が開けて、目標物を見つけたときにはホッとした。幸いなことに、何回か切り返して方向転換もできた。このときほど、車は小さい方がよいと思ったことはない(写真2)。

このように、乏しい想像力と危うい判断力を頼りに、臨機応変にコースを変更することは多い。当てが外れても、思いがけず鉄道廃線跡を発見したり、偶然お祭りに出くわして地元の味を堪能できることもある。「ひょうたんから駒」を実感できることも、また良しである(写真3)。

写真3 美味しかった「活!江差海鮮みなど、イカ刺し祭り」(北海道江差町)



のんきな旅も、何人かで行くとなると多少の気配りが必要になる。なぜなら、誰だって関心のないものを長く見せられるのは辛い。当方にとっても、物流マニア(?)としての行動を、奇異に見られやしないかと心配になる。

だから、連れが同好の士でないときには、多少遠慮がちに「蔵巡り」や「博物館巡り」などと提案する。見学も、手短かに切り上げる方が良い。

蔵にも博物館にも興味のない人たちには、「城」が良い。階段の多さが難点ではあるが、見晴らしも良いから、城を敬遠する人は少ない。戦国時代の城には、兵糧のための倉や隠し井戸があったり、城の周辺には物

写真4 過去と現在の物流を同時に眺めた「岡山城」(岡山県岡山市)



資補給路や河岸の跡が残っていたりする。

その傍らで現代の物流を代表する配送車を見つけたりすれば、「過去と現在の物流を同時に眺める」という感激に浸ることができる(写真4)。

つまりディズニーランド気分で「美しいお城を見に行こう」と言い出すことは、「兵站(へいたん:ロジスティクス)の神髄を探るための『奥の手』」なのである。

いささかマニアックな「物流の故事来歴を訪ねる旅」も、「蔵」や「城」などでベールをかぶせてしまえば、「美しい街を訪ねる旅」という高尚(?)な趣味に変換できるような気がしている。☑

## 美しい街を訪ねる旅

1人で行けば現地調査を兼ねた、

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により東京海洋大学、副学部長、評議員、流通情報工学科長を経て現職。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

